学術情報センターだより第6号（図書館報YPU Library第25号）

発行：2018年11月1日

山口県立大学学術情報センター
情報管理室：電話 083-928-5475
研究支援室：電話（内線） 5476
E-mail:gakujo@yamaguchi-pu.ac.jp

山口県立大学図書館
電話 083-928-0522
E-mail:lib@sakura3.yamaguchi-pu.ac.jp
郷土文学資料センター

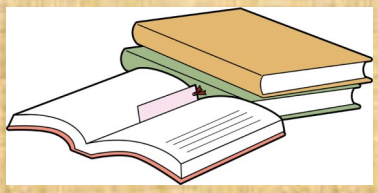
目 次

1.学術情報センターに研究支援室ができました・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
2.大学における研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
3.学生協働に取り組んでいます！・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
◇第8回大学図書館学生協働交流シンポジウムに参加しました
◇平成30年度公立大学協会図書館協議会中国四国地区協議会が開催されました
4.平成30年度ML連携特別展・スタンプラリー開催・・・・・・・・・・・・・・・・4
編集後記 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

今回の学術情報センターだよりは、研究支援室がお送りします！

学術情報センターが図書館の2階に移動して早半年が過ぎました。窓からは緑がたくさん見え、とても素敵な場所です。

ですが、まだ新しくできた「研究支援室」について知らない方もいらっしゃるかも（？）しれませんので、今回の学術情報センターだよりで改めて自己紹介をしたいと思います。



1. 山口県立大学に「研究支援室」ができました

2018年4月、学術情報センター内に研究支援室ができました。

研究支援室では、教育や学修の基盤となる研究（新たな知識の発見や創造）を支援するため、科研費申請や学内研究創作活動助成、学術出版助成などの研究資金の制度運用、生命倫理委員会など研究倫理への対応、科研費執行の確認などを行っています。

現在、川村、三浦の2名体制ですが、科研費申請期間のみ、申請書類チェックのためにURAを含めた3名体制となっています。

本学の研究発展のために、微力ながら努めてまいりますので、ぜひ図書館2階へお立ち寄りください。

2. 大学における研究

当室が支援の対象とする大学における研究とは何かを、この場をお借りして少し振り返ってみたいと思います。

(1) 大学の役割

本学を含め現代における大学の原型は、中世のヨーロッパに求めることができます。例えば、全学（一般）教育と専門教育というカリキュラムの２部構成は、中世大学から、時代や場所を変えながらも受け継がれてきたものです。

大学が研究機関としての役割を持つようになったのは、大学そのものの歴史に比べると意外に新しく、19世紀のドイツに起こった近代大学とする説が有力です。

やがてドイツの大学モデルはアメリカへ移植され、大学院制度の誕生を経て、現在のように研究が大学の大きな役割の一つとなりました。

(2) 知識基盤社会を支える研究

21世紀を迎え、ますます新たな「知識」の発見、創造という研究の重要性が高まっています。さらには、特許などが生み出す莫大な利益を研究資金とする市場化の波も押し寄せてきています。

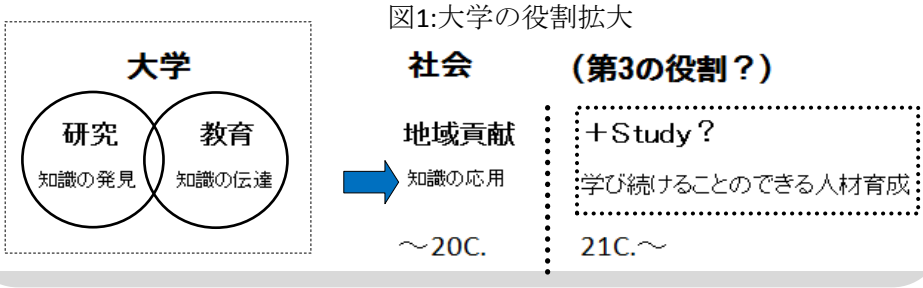
日本において、知識基盤社会を支えるための政策として科学研究費助成事業、いわゆる科研費の存在感が高まっています。科研費は、あらゆる学問分野における研究者の自由な発想に基づく研究の発展を目的としています。研究支援室でも、この科研費申請・採択・執行への支援を重要な業務の一つに位置づけています。

(3) 社会における大学の役割拡大

歴史的な流れでは、教育（Teaching）中心だった大学に、研究（Research）という役割が加わり、さらに20世紀以降、第3の使命として社会貢献が求められるようになりました(図1)。本学も、地域貢献型大学を目指す姿に掲げています。

日本における高等教育の将来像が現在議論されていますが、そこで重視されているのが学修（Study）。自ら学び続ける学修者本位の教育が、高等教育の目指すべき姿の一つとされています。

図1:大学の役割拡大



予測の難しい将来に対応していくためには、「自ら学び続け、新たな知識を見つけていくことのできる人材」の育成が、社会の発展にとっても必要だという考え方です。

自由な発想や研究が保証されてきた大学において、研究者自らの関心に基づく自由な探求、すなわち研究は発展してきました。今後の大きな社会変化において、学修者が自ら学び、新たな知識を発見することに価値が置かれるとするならば、大学における研究が持つ本質的な価値は、今後もますます重要になっていくのではないでしょうか。（研究支援室　川村）

参考:「知識社会における研究、教育、学習の分化と統合:日本の視点から」有本　章, 2010, RIHE国際セミナー報告書No.15
「アカデミック・キャピタリズムを超えて アメリカの大学と科学研究の現在」上山 隆大, 2010, エヌティティ出版
「大学制度の社会史（叢書・ウニベルシタス)」ハンス=ヴェルナー・プラール, 山本 尤（訳), 1988, 法政大学出版局
「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申（案))」中央教育審議会, 2018

３. 学生協働に取り組んでいます！

◇第8回大学図書館学生協働交流シンポジウムに参加しました！

9月6日(木)・7日(金)に第8回大学図書館学生協働交流シンポジウムが広島大学で開催され、学生2名と一緒に参加しました。そこで得たこと、考えたことをまとめ、9月28日に図書館内において、報告(伝達研修)会を行いました（写真1）。下記は、参加した学生の感想です。

写真1:図書館学生協働交流シンポジウムについての報告会(山口県立大学図書館1Fにて)

第８回大学図書館学生協働交流シンポジウムに参加して

国際文化学部文化創造学科３年　江村香苗　竹平志歩

今回、私たちは９月６日～７日の２日間、広島大学にて開催された、第８回大学図書館学生協働交流シンポジウムに参加させていただきました。学生協働に携わる他大学の学生と話す初めての機会だったのですが、ワークショップや食事会を通じてさまざまな意見交換をすることができ、とても貴重な経験となりました。

初日には、昨年度実施した学生協働の事例報告や、これまでの活動内容をまとめたポスターセッションが行われました。私たちは梅光学院大学、徳島大学、鹿児島大学、広島修道大学、京都大学、島根大学の事例報告を聞かせていただきました。オープンキャンパスで高校生向けの書庫ツアーを実施している大学や、毎月本のレビューを執筆している大学など、多くの同年代の学生が、深く図書館のイベントに関わっている姿を見て刺激を受けました。

２日目は他大学の方々とのワークショップでした。図書館での新しい企画やイベントを提案するというテーマのもとワークショップを行いました。普段接する機会のない、工学部や法学部の学生と図書館の企画について話し合うと、利用する図書のジャンルが違っていたり、図書館を利用する頻度や利用するサービスが違っていたりと、新たな発見を得ることができました。

現在、山口県立大学では学生ライブラリアンという形で、学生が図書館のカウンター業務などに関わっています。他大学の多くでは、カウンター業務に加え、学生が主体となって図書館の企画を運営したり、展示を作成したりと大学図書館と学生の協働が活発に行われています。学生協働に関して、今回のシンポジウムで初めて知ることも多く、驚きの連続でした。シンポジウムでの学びを生かして、今後、県立大学の図書館にも学生が積極的に関わっていければと思いました。

◇平成30年度公立大学協会図書館協議会中国四国地区協議会を開催しました。

9月13日(木)・14日(金)に平成30年度公立大学協会図書館協議会中国四国地区協議会を本学で開催しました。中国四国地区の公立大学図書館から21名の参加者がありました。また、参加大学からは様々な図書館パンフレット(写真2)も寄せられました。

研修会では、中央大学 文学部社会情報学専攻 教授 小山憲司先生より研修会の中心テーマとなる基調講演「学修支援における大学図書館サービスのあり方」(写真3,4)をいただき、本学で図書館情報学を学ぶ学生もワークショップに参加し、大学図書館サービスについて話し合いました。また、山口県立大学名誉教授・中原中也記念館名誉館長 福田百合子先生より「山口の中原中也について」の講演をいただきました。

写真2:各大学図書館パンフレット

写真3,4:基調講演の様子

4.平成３０年度ＭＬ連携特別展・スタンプラリー開催

山口県大学ML（ミュージアムライブラリー）連携特別展が10月から順次開催されています。本学図書館でも11月1日～1月31日まで図書館内で展示をしております。この機会に是非、図書館にお立ち寄りください。

開催期間中、各会場に用意されているスタンプを捺印し、一定の数を集めるとオリジナルグッズがもらえます！

詳しくは、図書館内のポスター又は図書館職員にお尋ねください。

編集後記

先日、「まだ大学の図書館に一度も行ったことがない」という学生の声を耳にしました。実は私も、図書館の2階に来る前は、本を借りに行ったことはありませんでした。図書館は少し、他の建物とは違う雰囲気を感じていたからかもしれません。

ですが、一回利用してみると、一気に身近に感じ、たくさんの本の中から自分の好みの本を見つけるのが楽しみになりました。ちなみに私は装丁とタイトルを見て直観で選ぶタイプです（大抵当たりです）。

一度､図書館に来てみませんか？（編集S）

学術情報センターだより第6号
（図書館報YPU　Library　第25号）
2018年11月1日発行